拓水

題字は　県漁連三浦会長

3月号

No. 186

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産業改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人　三浦清太郎
TEL 671-6685・681-6954
編集　拓水編集委員会
発行日　毎月 30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

漁協事業は順調に発展
経営規模の弱体は消えず
―45年度漁協現況調査から―

本県の漁協等単位協同組合は四五年度末で沿海地区漁協七五、業種別漁協四、内水面漁協二五、漁業生産組合六、水産加工協九の合計一一九組合があり現在も変っていない、これら組合について毎年組織、事業、財務状況を調査しているがこのうち経済活動をしている沿海地区出資漁協（七二組合）についてまとめた結果を概説してみよう。

一、はじめに

本県の漁業協同組合の数は実に多い。沿海地区出資漁協で七二の多きを数えている。この七二組合についても、その経営実態は実にまちまちで各組合間の質的な格差が非常に大きい。経済事業を全然行なわずいまなお旧態依然たる漁業権管理団体的な漁協が存在する反面、総水揚三〇億円以上信用事業をはじめ各種の経済事業を実施し、新らしい漁協経営を目ざして着実な成果をあげている単協もある。

従って行政指導面においても画一的にはいかずその困難さ、むずかしさがある。

いずれにしても急速な成長をとげている経済社会にあって漁業協同組合だけが旧態依然たる経営を続けて行くことは許されてよいとはいえない。さきに漁協合併助成法が制定されたのは漁協合併という手段を通じて、組合が積極的な経済活動を行なえるような経営規模にまで基盤を拡大し、組合員の漁業生産活動を支援助長し漁業の振興と漁業者の福祉向上を図ろうとするものであり、これが漁協指導の基本方針であり今後もこの方向に沿って合併実現を強力に推進して行かなければならない。

二、組織について

組合員総数一一、二六三人（正組合員九、〇四七人、準組合員二、二一六人）で表一に示すように正組合員の増加は僅かに過ぎないが准組合員の数が減少している、これは組合員の質的純化が進み、組合の体質進歩のあとがみられる。しかし、一組合平均の組合員数は一五六人（正組合員は一二六人）で全国平均のそれ（二六三人）と比較すると著しく低く小規模組合が非常に多いことである。さらに、単協の職員構成についてみると一組合平均で八、七人（内海五、五人但馬三七、八人）で未設置組合は七をかぞえ職員五人未満の組合（三三）を加えると全体の五七％を占め規模の過小状況を示す一面であり漁業になげかわいしことで合併性が痛感される。

組合員数の推移

年度別	組合数	正組合員	1組平均	准組合員	1組平均	総組合員	1組平均
		人	人	人	人	人	人
42	80	9,336	117	2,275	28	11,611	145
43	75	9,240	123	2,228	30	11,468	153
44	72	8,987	125	2,467	34	11,448	159
45	72	9,047	126	2,216	31	11,263	156

事業別、取扱高別の組合分布

取扱高 / 事業	100万円未満	100～500万円	500～1,000万円	1,000～2,000万円	2,000～5,000万円	5,000～10,000万円	10,000～20,000万円	20,000～50,000万円	50,000～100,000万円	100,000万円以上	組数合計
信用貯金事業	4	4	6	7	14	6	4	3	2	1	51
信用貸付事業	3	13	6	9	12	1	5	4	0	1	54
販売事業	4	1	3	3	7	7	14	15	3	3	60
購買事業	1	11	8	7	8	5	4	1	0	0	45

三、事業について

信用事業と経済各事業の取扱高は順調に発展しつつあるが、販売事業では六〇組合（漁連ののり共販関係を含む）信用事業は四五四組合、購買事業は四五組合が実施したに過ぎず少なくとも全体の二割程度は全然事業を行なわず漁業権管理団体的な組合であるといえる。

(1) 信用事業面では、一組合平均貯金高一、九〇〇万円貸付残高七、〇〇〇万円で全国平均なみで前年に比し貯金で二十四％貸付で二十三％の伸長をみている。しかし、水揚金額に対する漁協貯金の割合は四十一％（内海二十一％但馬七十一％）で前年より三％ほど上昇しているが貯金吸収率は低位にありその向上がまたれる。

(2) 販売事業では、本県総漁獲量は約一八〇億円と推定されるが漁協共販取扱高は、内海漁連でのみ共販取扱高を含め約一四八億円で一組合平均取扱高は二四、六〇〇万円であり、この平均取扱高以上の組合数は二十一組合と全体の三五％に過ぎない。

四、組合財務について

(1) 資金調達状況をみると組合員からの貯金は着実に伸長しており資金調達額の五二・五％を示しているが自己資本の充実は不十分でその構成率は一二・八％と前年同期（一四・二％）より減退している。これに対し固定資産の取得は各種事業の拡大によって急速にふえて固定比率は七三％であり固定資産取得に対する自己資本調達率は僅かに二八％に過ぎない、増資の必要性が痛感される。

(2) 資金運用面では預金の減少、貸付金の増加は漁業近代化資金制度の実施によって必要資金の自賄体制が緒についたようにみえる。しかし、貸付金のうち約半分は信漁連借入であり、組合自己資金による貯貸率は三二％と信用事業体制の不備から再預け転貸方式をとっていることが伺える。ここでも合併による信用事業体制の整備がまたれる。

(3) 四五年度決算で利益剰余のあった組合は六〇組合（全体の八三％）に対し損失を生じた組合は九組合である。平均で三五一万円の当期剰余金が発生している。

（県水産課組合係）

最近3ヶ年の比較民信対照表（/組合平均）

単位 千円

資産の部 科目＼年度	43年度末 /組合平均	構成比率	44年度末 /組合平均	構成比率	45年度末 /組合平均	構成比率
	千	%	千	%	千	%
信用事業 現金	607	0.6	649	0.6	746	0.6
預金	41,071	41.0	50,633	38.3	42,987	34.9
有価証券	917	0.9	840	0.6	2,096	1.8
貸付金	27,933	27.9	43,594	33.2	32,469	29.7
その他	—		4,300	3.0	4,703	1.1
計	70,528	70.5	99,978	75.6	116,049	72.2
購買事業 事業未収金	2,747	2.8	5,707	4.3	4,310	3.9
その他	27,12	2.7	7,724	5.8	8,472	1.8
計	11,477	11.5	13,603	10.3	14,903	8.5
固定資産 有形固定資産	11,746	11.7	18,533	14.0	23,236	14.7
外部出資	311	0.3	362	0.3	378	0.2
その他	4,170	4.2	6,474	4.1	3,783	2.3
計	1,083	1.1	1,362	1.1	1,471	0.8
	16,330	16.3	22,701	17.2	28,703	18.0
合計	100,137	100.0	132,202	100.0	160,274	100.0

負債純資本の部 科目＼年度	43年度末 /組合平均	構成比率	44年度末 /組合平均	構成比率	45年度末 /組合平均	構成比率
	千	%	千	%	千	%
信用事業 貯金	50,466	50.3	67,279	51.1	84,189	52.5
借入金	14,430	14.4	21,954	16.6	22,202	13.7
その他	2,204	2.2	2,170	1.6	2,277	2.1
計	67,202	67.0	93,323	70.3	108,167	70.3
購買事業 事業未払金	1,824	1.8	3,479	2.7	4,471	2.9
借入金	2,189	2.7	2,686	2.0	2,897	2.0
その他	1,894	1.9	2,062	1.6	2,132	1.0
計	12,084	12.1	16,627	12.6	17,498	10.9
負債計	79,049	79.7	112,410	84.9	127,243	79.2
純資本 出資金	7,939	7.9	9,249	7.0	10,818	6.9
特別積立金	3,910	3.9	4,740	3.6	3,949	2.4
繰越剰余金	2,224	2.2	2,437	1.8	2,378	1.8
繰越損失金	1,304	1.6	2,923	2.2	2,759	1.8
計	12,249	12.3	18,799	14.2	20,274	12.8
合計	100,137	100.0	132,202	100.0	160,274	100.0

自己資本 43年度末 —0.134　44年度末 —0.118　純資産 43年度末 —0.160　44年度末 —0.160

全国漁村青壮年婦人活動
実績発表大会開催さる

本県から高砂漁協水産研究会（代表滝本一郎氏）が出場、水産庁長官賞ならびに全漁連会長賞を受賞した。大会の詳細は次のとおりである。

大会で来賓として祝辞をのべる太田水産庁長官

第18回全国漁村青壮年婦人活動実績発表大会

とき　昭和四十七年二月二十一日～二十二日

ところ　日本都市センター

主催　全国漁業協同組合連合会

後援　水産庁
日本放送協会（NHK）
水産経済新聞社
農林中央金庫

本大会は昭和29年に第一回開催以来、本年で十八回を重ねた。本大会のねらいとするところは、全国漁村の青壮年および婦人集団の代表者が一堂に会し、日頃の研究成果を発表し合い、また今後の活動方向について研究討議を行なって互に知識の相互交流を図り、これからの実践活動の成果を広く全国に普及して沿岸漁業の振興に寄与しようとするものである。本年も全国から三十八グループ（漁業部門二〇グループ、増殖部門十八グループ）が参加し活発な発表が行なわれたが、本県からの代表として高砂漁協水産研究会が増殖部門に選ばれ、代表の滝本一郎さんから「赤貝種苗の中間育成について」の実績発表がなされた。内容はさきに兵庫県大会にも発表されたもので、最近赤貝資源が減少し、さらに他県からの入手が困難となってきたため、人工採苗種貝を中間育成することにより種苗の確保を図ろうという試験で各種試験の方法等が発表され、多くの発表のなかでも注目を引いた。高砂の地元ではこの全国大会出場には大きな関心を示し、河村組合長をはじめ組合員が数名また高砂市役所の係員が多数参加し応援につとめた。

第二日目の分科会でも各助言者から各種の質問を浴びたが、発表者の滝本さんはテキパキと応答し好評を博した。本大会の雰囲気は地方大会に見られない活気にあふれたもので、各県ともマンネリ化しているといわれている地方大会の今後の実施についても検討すべき点が考慮された。

（県漁連）

中間育成方法

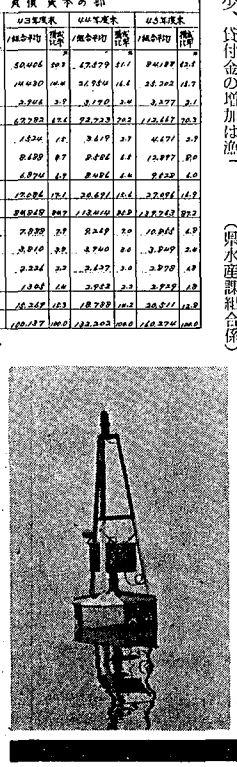
研究発表中の滝本一郎さん

ズワイガニ
人工ふ化飼育試験開始

本年より始まった日本海栽培漁業を推進するため、本県では但馬地方にとって最も重要であるが、資源の減少が目立っているズワイガニを重点に取り上げることになった。

県立水産試験場でもこの針に従い、二月上旬に但馬から親ズワイガニを輸送し、本年度予備試験として人工ふ化飼育試験を開始した。現在水槽内でふ化した稚仔が多数元気で遊泳している。

ズワイガニについてはその生態が殆んど解明されていないので、今後稚仔の歩留り、成長期間、飼料等未知の問題と取り組んで解決しなければならないが、近い将来技術も開発され放流用種苗生産も可能になるものと期待される。



最高の性能と
最大の実績を誇る…
ブイの王様
ゼニライト
あらゆる漁場にあわせてゼニライトは約40器種をそろえて
皆様の御用命をお待ちしております。
お問合せは各県漁連へどうぞ。
株式会社銭屋アルミニウム製作所 浮標事業部
池田市豊島南2丁目1176―1・Tel・0727(61)1231・Telex・5322―235
枚方Tel・0958(66)653・Telex・7524―34・東京Tel・03(351)3681
Telex・252―2097・札幌0122(26)2571

県漁連汚水対策委
複雑化する汚水公害に慎重取組み

汚水対策委活動開始

既報のとおり去る一月二一日より実質的な活動を開始することになった兵庫県漁連汚水公害対策委員会は二月三日第三回目の委員会を開催して差し当っての活動方針を次のように決定した。

汚水公害の発生は流出油・赤潮等季節的或は突発的なものと、水質汚濁等恒常的に悪化するものと二つの型があり、その様態に至っては、ますます複雑化しております。

したがって当委員会の使命も広範多岐に亘るのであるが、一挙にその全般に取り組むことは種々難点もあり、発足早々のこともあるので、効果的に且つ適切な対策を推進して行くため次の事項を早速実施に移すこととした。

(1)早速実行に移す必要のあるもの、突発的なもの、どうしても早急にならない問題等から重点的に取組み順次拡大してゆくこと。

(2)県下沿海における汚水公害の実情を取りまとめ、その実情を知悉して効果的な対策を樹立するため各漁協傘下の汚水公害の実態についての報告を依頼すること。

(3)漁協系統内部からの汚染源となるよう事項の排除方を県下各漁協組合長に依頼すること。このことについては汚水公害防止対策をより強力に推進するためにも、漁協系統内部からの汚染源となるものの除去が重要な問題となるので、①漁船のビルヂ・ウエス等の陸上処理、②荷捌所、市場、加工場、冷蔵庫、等の汚物、残滓、汚水等の処理③港内、陸岸等に放置された廃船等の処理、等これらの適切な処理について速かな実施を依頼すること。

(4)突発事故、災害等の発生時における緊急通報連絡の実施を徹底すること。被害を最少限に喰い止め、初動体制の発動を容易にするため、汚水公害情報の緊急通報系統を確立することになり、県水産課海上保安部、内海漁連等これに関係ある向きと充分打合せの上別図のような系統図を作成した。

以上のことを決定し各漁協に早速依頼した。種々の問題点については各漁協の報告を取まとめ、有効適切な対策が推進されることになるわけである。

汚水公害情報伝達図

- 海上保安庁（第5管区海上保安本部，神戸海上保安部）
- 兵庫県水産課
  - 兵庫県警察本部
  - 兵庫県立水産試験場
  - 兵庫県水質騒音課
- 兵庫県漁連汚水公害対策委員会
  - 兵庫県内海漁業協同組合連合会――各出張所
  - 地区通報連絡所
  - （但馬漁業協同組合連合会）
- 地区通報連絡所（但馬漁連）
  - 隣接漁協
  - 発見者――所属漁協
  - 隣接漁協
  - 隣接地区通報連絡所
- 農林事務所（洲本・豊岡）
- 市役所・役場――地区保健所

海区委員会指示発動

保護水面、稚魚育成漁場での採捕禁止

水産資源の保護増養をはかるため保護水面として国の指定を受けた区域及び稚魚育成漁場として県が設定した区域内での水産動植物の採捕を禁止することについて、二月二十九日兵庫県民会館において第一〇九回兵庫県瀬戸内海漁業調整委員会が開催され、審議の結果、次のように決定され漁業法第六十七条の規定に基づき告示されることとなった。

記

一、附議事項

(一)保護水面および稚魚育成漁場設置にかかる委員会指示について

保護水面

（三原郡南淡町灘吉野および灘山本地先）

稚魚育成漁場

（津名郡五色町鳥飼浦および都志角川地先）

二、審議決定事項

国の指定告示の日より昭和四十七年六月三十日まで(一)の区域内でのすべての水産動植物の採捕を禁止する委員会指示を発動することに決定する。ただし兵庫県漁業調整規則改正の日をもって解除する。

委員協議会

一、漁場調査結果の報告及び検討について

二、西日本ブロック会議の内容報告について

三、岡山、兵庫両海区入会操業調整の事前協議内容について

四、漁場利用中央協議会の内容報告について

昭和四十六年（一月～十二月）
但馬海区総漁獲高まとまる

但馬漁連では毎年一月より十二月まで一ケ年間の総漁獲高を各単協より聴取しておりこの程昭和四十六年分がまとまり集計の結果次のような数字となった。

いかつり漁業は沿岸（小型船によるもの）と沖合（二〇屯以上の大型船によるもの）に大別されるが特に沖合いかつり漁業においてはこれが着業以来毎年好調を続けており毎年その記録が更新されておる。特に四十六年はこれに従事する漁船は底曳兼業船も含め二〇〇隻を突破し四十七年以降においても着業船が増加の見込みであり正に但馬海区はいかつりに明けいかつりに暮れるという今日この頃の漁業状勢となっており、今後も当分この傾向が続くものと予想されている。一方従来からの但馬海区の主幹漁業たる底曳網は横ばいの状況で沖合いかつりの好況に反し振わず正に攻守交代し完全に但馬海区の主幹漁業は沖合いかつりに転換したと云える。

各漁種別漁獲高・組合別漁獲高は次のとおりである

底曳網‖一三三九九屯・二三一億三千八百六十一万円

沖合いかつり‖二六二六億八百六十三万円

八屯・五三億六千七百五十九万円

べにずわいかにかご‖一六二二屯・一億四千三百五十六万円

一本釣‖一九三五屯・五億八千六百七十八万円

延曳縄‖二九屯・二千三百一万円巾着網‖五八八九屯・三億六千七百万円

浮敷網‖一二七屯・八百五十八万円

定置網‖三五九屯・五千九百五十五万円

地曳網‖一九屯・二三一万一千円

採藻・採貝‖二五二屯・五千三百五十三万円

その他‖四六三屯・六千二百九十一万円

合計‖五〇三六六屯・八十八億六百五十五万円

津居山漁協‖七一〇六屯・一六億一千七百九十七万円

竹野浜漁協‖一五五九屯・三億三千四百五十六万円

柴山港漁協‖八八六一屯・一八億八千六百四十四万円

香住町漁協‖二七〇六六屯・三十六億四千五百三十一万円

浜坂漁協‖二一九八屯・五億二千七百七十五万円

諸寄漁協‖一八九六屯・四億二千二百七十二万円

居組漁協‖一六七七屯・三億七千百八十五万円

合計‖五〇三六六屯・八八億六百五十五万円

発生源不明の流出油事故
漁業被害の救済対策の確立
全国漁民の総意で強力な推進を

二月に迫入ってからでも一四日油漁協地先・一五日明石海峡周辺と、立て続けに流出油事故が発生し、特に周辺ののり養殖漁業に重大な被害が出た。

我々漁民が永年にわたって再三再四その抜本的な防止対策並びに漁業被害救済対策の確立を要望し、呼びつづけてきたにも拘らず、航行船舶並びに工場・事業場よりの流出油事故発生は「五管の海上犯罪白書（三月一七日神戸新聞）」によると四六年中の五管管下の流出油事件は二五六件も発生しており、四五年中の二倍強で内検挙されたのは九二件にとどまっているように、これが対策については公害関係諸法の施行とも併せて序々に講ぜられつつありますが、依然として抜本的強化策は見られず、かえって最近増々そのひん度を加え、これに応じて加害者不明件数も激増し、瀬戸内海漁業中就、のり養殖漁業に致命的打撃を与えつつあります。特に神戸港、明石海峡・大阪湾、播磨灘周辺で多発する夜間航行船舶による廃油不法投棄には、その防除にすべなく、海上保安当局の懸命のパトロール捜査にもかかわらず、加害者は概ね不明のまま、逃走し被害を受けた漁業者は常に泣き寝入りという、誠に不合理きわまりない実情が積み重ねられており、四五年一月以降、本県だけでも漁業被害を与えた発生源不明が一五件に上りその被害も莫大な額にのぼっております。これは一部心ない海員の所業とは云え、生活権の侵害も甚だしく、沿岸漁民にとっては図気にも等しく一大脅威となっております。すことは、海運業者・工場等加害源となるものの連帯責任により解決されるべきだと痛感している次第であります。

このように多年にわたり泣き寝入りのままで推移していることは他産業においてはその類例を見ず、その殆どの被害、損害の救済は国の施策あるいは同等かの方策により解決されつつあるのが実情であり、ひとり沿岸漁業界のみがそのまま放置され、我が国動物性蛋白食糧源確保に大きな貢献をしている瀬戸内海漁業を根底から脅やかすものであり政府はこれが抜本的解決策を樹立することが全漁民に対する当然の措置であろう。

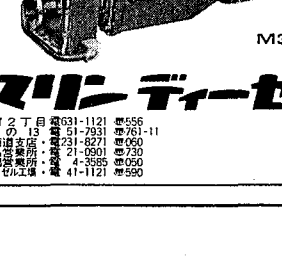
さいわい県では四七年度から発生源不明の被害に対する利子補給の道を計画されていると聞く、まことに時宜を得た措置でありますが、国においてもこれ等の問題点を早急に解決し、流出油事故による被害と脅威を除去するため、その発生防止は勿論、発生源不明の漁業被害救済の抜本的策対が早急に樹立されるよう、全国漁民の総意を以って強力に推進されなければならない。このことについては兵庫県漁連公害対策委員会から全漁連並びに関係機関に強く要望し運動を展開している次第である。

（県漁連）

余裕馬力の差が〝大漁〟をお約束します

新発売

●内海沿岸漁業に最適
M3Q＝30馬力 1400回転
●内海沿岸の底引きに最適
3QC＝農林15馬力
1200回転



M3Q

ゆたかな人間環境つくり

クボタ マリンディーゼル

久保田鉄工

本社・大阪市浪速区船出町2丁目1の13 電631-1121 郵556
高松営業所・高松市内町 電51-7931 郵761-11
東播営業所・加古郡播磨町 電279-2111 郵103
北海道支店・札幌 電231-8271 郵060
福岡支店・福岡 電74-6731 郵810
広島営業所・広島 電21-0901 郵730
名古屋支店・名古屋 電563-1511 郵450
宮城営業所・仙台 電4-3585 郵050
仙台支店・仙台 電25-8151 郵980
ディーゼル工場・堺 電41-1121 郵590

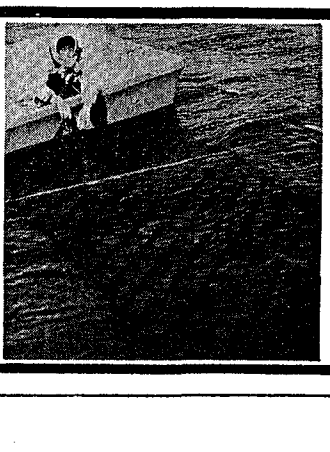
クボタ

クラレ クレモナ®

海苔網（冷蔵網）

海苔養殖の頼もしい担い手

おかげさまで合繊海苔網の95%以上にクレモナが使われています



クレモナたから海苔網
富山式クレモナ海苔網
タイトウのクレモナ海苔網
アミカン式クレモナ海苔網
ヒラタのクレモナ海苔網
クレモナふしなし海苔網
クレモナまるきょう海苔網
クレモナせと海苔網
クレモナブゼン海苔網
クレモナスズラン海苔網
クレモナケンモウ海苔網
クレモナ光鯛海苔網

（順不同）

2月の漁況と海況（内海側）

◉海　況

1～2日播磨灘，3～4日大阪湾で実施した海洋観測結果によると播磨灘北西部では表・中層10.0℃～10.6℃，底層では10.3℃～10.8℃，その他の海域では各層にわたって11.0℃内外，また大阪湾では湾奥～中央部では表・中層10.6℃～11.6℃，底層11.5～12.0℃，南西部では表・中層12.0℃内外，底層では12.4℃～12.8℃の水温値をそれぞれ示しこれらを平年に比較すると播磨灘・大阪湾全海域とも各層にわたって＋2.0℃内外高目の高水温分布に経過している。一方15日実施した紀伊水道北部の海洋観測結果では西部で各層共11.0℃内外，中・東部で表・中層12.0℃～12.8℃，底層13.0℃～14.0℃の水温値を示し大阪湾，播磨灘同様全域にわたって＋2.0℃内外高く前月に引続き暖冬で経過したため1ヶ月間で大阪湾1.0℃～1.5℃播磨灘0.5℃～1.0℃，紀伊水道北部1.5℃～2.0℃の降温にとどまり4月中旬並の高水温分布を形成している。

◉漁　況（概況）

前月に引続き本月に入っても近年にない暖冬で県下各地のノリ漁業は冷凍網の張替えなどで大巾な減産を喰止めているが質，量ともしだいに低下している。一方漁船漁業は前月に引続き順調に恵まれ，従って例年に較べ出漁日数も多くまた今月に入り大阪湾沖ノ瀬，上ノ瀬，播磨灘，鹿ノ瀬，室津ノ瀬海域でイカナゴ親魚を対象としたパッチ網，船曳網の操業が活発となり閑漁期としては活況を呈している。その他の各海域における現在の主漁業とその対象魚は前月と大差なく明石瀬戸とその東西海域では小型底曳網でメイタカレイ，イイダコ，アイナメ，タコ，1本釣でアイナメ，スズキ，メバルなど。友ケ島水道及周辺海域では小型底曳網でアナゴ，キス，タコ類，カレイ類，刺網でサヨリ，キス，延縄でアナゴ，カサゴ，1本釣でスズキ，タコ，カサゴ，メバルなど。沼島周辺及び沖合では小型底曳網でエビ類，イカ類，テナガダコ，アナゴ，キス，1本釣でキス，タイ，ハギ，磯刺網でハギ，サザエなど，鳴門南北海域では小型底曳網でメイタカレイ，アイナメ，オコゼ，タコ類，1本釣でタコ，延縄でアナゴ，などとなっている。

◉各　地

（註・以下は漁業種類別漁獲量は1日1隻当り@は1キロ当りの値段円，何隻は操業隻数）

明石浦　小型底曳網イイダコ20キロ@予持500～600他200～250，メイタカレイ10～15キロ@大1,700，中1,300，アイナメ10キロ@大1,000，小600，タコ5～7キロ@550，16隻。各1本釣アイナメ20～30キロ，スズキ2～3キロ@1,500，メバル7～10キロ@1,000～1,200，各25隻。ブンチン漕イイダコ20キロ，タコ5キロ，イシカレイ20キロ@400，7隻。

岩　屋　1本釣メバル4キロ@820，アイナメ5キロ@900，70～80隻。イカナゴ船曳網900～1,200キロ@50，6統。　延縄アナゴ150～170キロ@大550～600，小150～180，30隻。各底曳網カサゴ，メバル25～30キロ@850，15隻。メイタカレイ20～25キロ@1,500，10隻。キス流刺網20～30キロ@750，6隻。突棒ナマコ青20キロ@60，赤10キロ@400，3隻。

由　良　小型底曳網タコ8キロ@600，キス4キロ@600，アナゴ10キロ@400，カレイ4キロ@700，その他15キロ@200，50隻。刺網サヨリ25キロ@800，2隻キス30キロ@600，10隻。延縄アナゴ50キロ@500，10隻。カサゴ14キロ@900，その他15キロ@500，10隻。タコ壺縄80キロ@800，1隻。1本釣スズキ10キロ@600，40隻。タコ7キロ@700，40隻。カサゴ8キロ@800，20隻。突棒アワビ6キロ@1,100，サザエ10キロ@400，15隻。

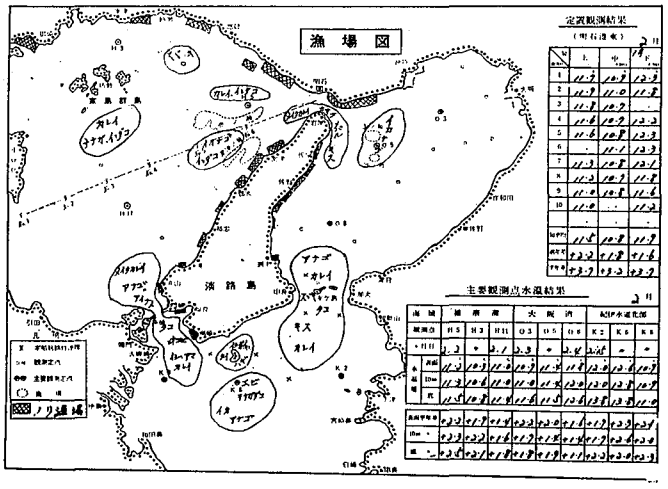
沼　島　小型底曳網小エビ12キロ@120，テナガダコ15キロ@50，カワツ3キロ@950ハリイカ15キロ@500，キス5キロ@300，アナゴ12キロ@200，シリヤケイカ7キロ@150，42隻。1本釣キス7キロ@600，15隻。イシダイ15キロ@大1,300，中900，小500，10隻。タイ2～3キロ@大3,000，中2,500，小1,500 5隻。磯刺網ハギ90キロ@大480，小100，サザエ20キロ@330，26隻。突棒アワビ8キロ@大1,100小700，サザエ20キロ，ナマコ15キロ@270，8隻。

福　良　小型底曳網メイタカレイ20キロ@700，アイナメ2キロ@700，タコ3キロ@400，オコゼ2キロ@1,300，雑魚2キロ@400，29隻。石桁網イシ，アマカレイ10キロ@350，イイダコ10キロ@160，オコゼ2キロ，10隻。タコ1本釣8キロ@400，9隻。突棒アワビ5キロ@900，サザエ3キロ@300，イソ貝25キロ@80，タコ3キロ@400，24隻。キス刺網25キロ@680，9隻小型底曳網メイタカレイ50キロ@850，タコ7キロ@450，20隻アナゴ延縄30～40キロ@400，14隻。キス刺網40キロ@450，6隻。イイダコ壺80～100キロ@280，2隻。

◉イカナゴ新仔について

（2月上旬白鳥丸による調査結果）稚仔の分布状況は昨年同期とは逆に大阪湾で多く播磨灘で少ない。また今年の産卵期はやや早目から長期間であったため稚仔の体長はきわめて大きい。これは産卵期に当る12月中の水温が低目に経過し，その後（12月下旬以降）近年にない暖冬で水温下降度がきわめて鈍化し例年にない高水温分布に経過しているため成長が促進されている。また分布密度も産卵場である上ノ瀬，沖ノ瀬，鹿ノ瀬周辺に濃密に現れ稚仔の拡散が不充分である。これら諸要因を総合的にみて本年の始漁期は早いが短期に終漁する（不漁型）見込みを立てているが，しかし備讃瀬戸海域の調査結果（岡山水試）では同海域での稚仔発生量がかなり多い模様で昨年のように海・気象の好転（大型季節風の連吹3月上旬～中旬）で播磨灘えの大巾な添加群を望みたいところである。

（水試岩井）



未取得者の消化に全力
指定講習会除々に制約
―小型船舶指定講習会―

去る四十六年二月一日より県下内海地区で実施されてきた小型船舶操縦士指定講習会も，十二月十五日明石地区（明石補漁協）を最後に一応開設予定を終了し八四九名の有資格者を得た。

しかし，当初希望が出されていたのは，約二千名であったことから，県漁連では神戸海運局，日本船舶職員養成協会神戸支部と協議し，更に指定講習会の開設を促がし，約千名余りの受講希望者の消化に引続きあたることになった。

今後の開設にあたっては一講習会（一教室）は五〇名程度（五〇～五十三名までが限度）でなければ開設できないので，未取得者の多い地区にあっては，近隣漁協と充分に連絡し，開設希望を出されたい。

又，従来の筆記試験問題は，あらかじめ地方海運局において公示された問題一三五問のうちから，出題されていたが，昭和四十七年一月十三日運輸省告示第八号により，一三五問以外（応用的なもの）からも出題されることになったので，この点留意されたい。

尚，受講料（昼間六千円夜間八千円），その他については，昨年度とほぼ大差なく，依然漁業者にとって有利な措置と思われるので大いに利用されるようおすすめします。（県漁連）

「海をきれいにする運動率先して」
〃廃船（漁船）の処理を早く〃

各方面の支持を得て〃海をきれいにする運動〃が大きく展開されているとき，漁業者としても，率先して港内等に放置されている廃船（漁船）を処理しよう。これには，漁業協同組合が責任もって，市町，消防関係と連絡をとり，焼却等の措置を行なおう。なお県水産課では毎月，処理の報告を求めることにしている。

飛潮廿四光
(18)　天野さん

天野さんがそのむかし県の水産課におられた時代から，ぼくは天野さんのお人柄は存じあげており一度しみじみ教えを乞はんと思いつつその機に接しなかったのが不思議その日

"憐のような卍を描き
複雑な旋律をえがいて
ここ兵庫の港に
切々と春の雪が舞っていた。

昭和廿六年信漁連が創立される時，ときの岡井水産部長（ぼくもたいがいお世話になった）に大きな望を託され，ここに入って以来その業績はいやましに延び，押しも押されもせぬ漁民のための金融機関として君臨できたのは傘下の組合と歴代の会長の精華にちがいないが，縁の下の力もち的存在に耐え地道な努力をささげてこられた天野さんの双肩にあり得たといっても誰もいぶかりはしまい。

先般編さんされた廿年史の重みは，ひとえに天野さんの重みだ。

「廿何年の星霜の道程には人に言えないなやみもあったが，人のねうちは企業が大ピンチにおいこまれた時にこそ，持てる勇気と智恵を出しきって打開してゆくところにある」

という松下幸之助氏のおと言葉に刺戟され，その試練をのり越えてきたと感慨ぶかげ

苦しかったことも，ふりかえってみればいっかな楽しい

その心境なればこそ個々の職員のミクロ的見地を全体の理解協力というマクロ的視野に拡大強化してゆくジョイントとして常々ヒューマン，リレーションズに心を至しているとおっしゃる。

だが，自分で長所と思っているところがあながち欠点で理屈っぽいのがいけないんじあないかとみづからの内面を反省なさるが，原理から出発した事実や思考の規範の中で論じられる天野さんの理論は整然としており又こうもおっしゃる

「私はひよっ子であり思いあがりにならぬよう自分をセーブしている」

と

そして先輩，とくに小川剛さんの話に及ぶと威儀を正して

「私の青春時代，苦労力行ができたのは小川さんのおかげだ」

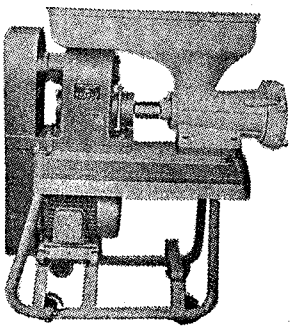
と，その人をおしたいする。

「ちみつな頭脳で真面目だから，心から信頼がもて，すべてをまかしてもまかした甲斐のある男だ全国信連の専務や参事に対しても，決してみおとりしない」

と西上会長さんの太鼓判をお伺いして信漁連を辞した，外は靠々と舞う青白い幻が冬の名残りをとどめていたが，ぼくにはそれが待春のいぶきだと力強く感じられた。

（47・3・1）

養魚の調餌と造粒は
コウベヒラガのミートチヨッパーで



養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

（御一報次第カタログ贈呈いたします）

ミートチヨッパーとプレート，ナイフの専門工場
株式会社 平賀工作所　神戸市長田区水笠通3丁目8　TEL 代表神戸(078)62―1527

三月行事予定表

(月・日　会議等行事内容)

県水産課（本庁）

三・十一　予備監査、農林常任委員会
十三　御売市場条例検討会（神戸）
十四　漁協合併推進協議会（神戸）
十五　小型底曳網漁業合理化研究会（神戸）
十六　大阪湾漁業調整協議会（垂水）
十七　内水面漁業振興対策都道府県協議会（新潟県）
十八　予算特別委員会
二十一　〃
二十二　本監査
二十三　漁業後継者激励会（香住）
二十四　内水面漁場管理委員会（神戸）
二十七　農林水産技術会議（神戸）
二十九　農林漁業審議会（神戸）
二十九　兵庫県瀬戸内海々区漁業調整委員会（神戸）
三・一　第四回御売市場制度問題協議会（神戸）
三・一　兵庫県遊漁対策調査会（神戸）

県立水産試験場（本場）

三・十三　南西水研内海資源ブロック会議（広島）
十四　水産庁大阪湾調査
十五　重要水族環境調査（大阪湾ほか）
十五　人工潮利用部会（福井）
十六　指定研究打合会（東京）
十四　種苗生産指定試験報告会（東海区水研）
十五　のり養殖指定試験報告会（東海区水研）
十六　種苗生産技術研修会（茨城・千葉）
二十二　在来マス指定試験報告会（東海区水研）
二十三　南西海区水研ブロック会議（高知）
二十五　オートアナライザー研修会（東京）

漁協系統団体

三・十一　全漁連境港タンク完成式（但馬漁連）
十三　内海漁船保険組合総代会
　　居金協会役員会
　　信漁連臨時小委員会
十四　県漁協合併促進会議（県連・信漁連）
十六　内海漁連正副会長会議
二十三　漁業後継者激励会（但馬漁連）
二十七　但馬漁連役員会
三十一　神合イカ釣漁業協会役員会（但馬漁連）

（二月三十九日現在判明しているもの）だけを掲載しております。

クルマエビの成長と移動

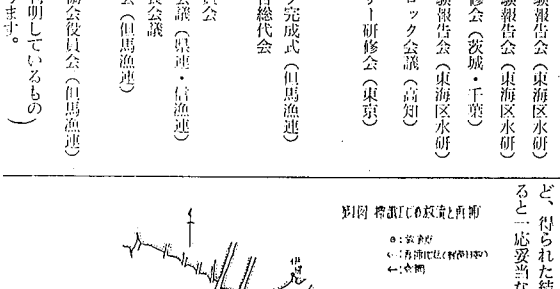
（標識放流）越冬人工種苗の場合

近年、栽培漁業の放流事業対象となっている各魚種は、一般に介藻類と異なって成長にともない移動、分散する種のものが多い。このため、種苗放流を積極的に支持する漁業地域では、その専用海域内で可能な限り商品サイズに達したものの漁獲向上を期待するのは当然なことである

クルマエビに関しては、閉放的漁場では特に事業地域のみで顕著な効果をもたらす場合が多いが、開放的漁場では事業地域のみならず、時には隣接漁業地域で放流資源が多く利用される場合もみうけられる。

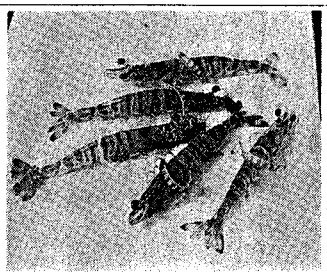
したがって、放流資源の利用限界をあらゆる側面から推定する必要があろう四十六年にはその一つとして越冬した人工種苗（若エビ平均体長八十二ミリ）を用い、播磨灘北部の高砂地先と、淡路島西岸の湊地先の二ケ所にそれぞれ二百尾宛標識放流を行なった。標識放流したクルマエビは写真に示すものである。また、放流地点と再捕地点は第一図に、標識エビの成長と再捕経過は第二図の通りである。

今回の標識放流調査における再捕率（平均四・四％）は当初予期したよりも低い値であった。しかし、標識エビの大きさ、成長過程、放流時期および放流地点など、得られた結果を綜合すると一応妥当な再捕率と考えられる。すなわち、四十五年に湊地先で行なった標識放流エビは成エビで、盛漁期中の主群であったため標識放流尾数は僅少（計二百四尾）にもかかわらず高い再捕率（平均二三・五％）を示した。しかるに、今回は長期にわたって水槽飼育された若エビであり、十分野性化されてなくしかも両地先の漁獲対象主群ではなかったためである。また、両地先の再捕経過の差は放流点によるものと考えられる。湊地先では好漁場に放流したため、漁獲主群ではなかったが、一定期間の連続的な再捕がみられ、主群の漁獲減少とともに再捕されなくなったと考えられ、放流時期および放流地点など、得られた結果を綜合すると一応妥当な再捕率と考



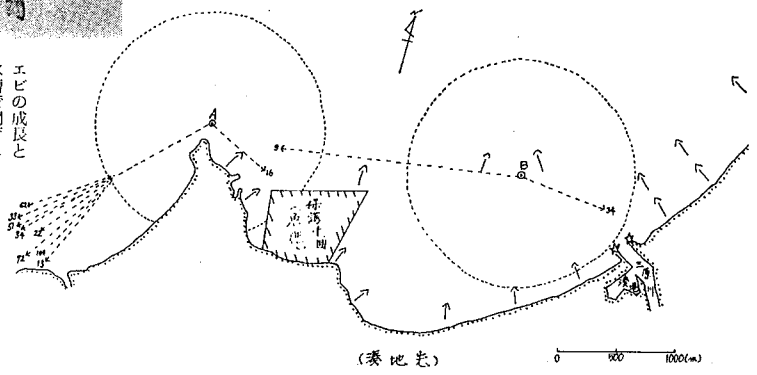
沿岸で、エビ建網や小型底曳網の操業されない地点であった。したがって、ある程度の大きさに成長するまで放流地点附近で成長し、一定期間を経て沖合に移動し再捕されたものと思われる。

一方、放流エビの移動をみると、湊地先では四十五年の成エビほど遠距離に移動せず、二～三kmに留まり高砂地先では二～五kmで、両地区とも放流（六月上旬）後百日（九月中旬）以内では大きく移動しないものと推定される。移動の方向は湊地先では沿岸ぞいに南西方向、高砂地先ではほぼ扇状に分散の傾向がみられるが、これは棲息環境や放流条件により必ずしも一定しないかも知れない。



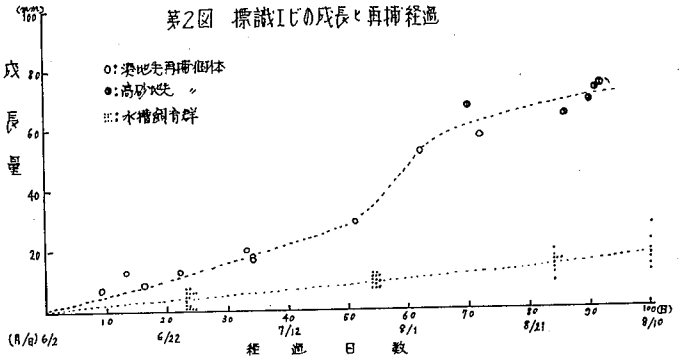
放流エビの成長は水槽飼育群に比し大きいが、放流後約五〇日間（六月～7月中旬）の成長は比較的緩慢で、七月下旬から九月中旬にかけては人口増加曲線に類似した成長を示しているしかし、自然海に放流したエビの成長と水槽で飼育した同エビの成長との差には注目すべきである。両者の間には、棲息空間、海水の均衡、底質、および餌料の差など興味深い問題点が多い。

一般に、クルマエビは体重三〇～五〇g（体長一二〇～一五〇mm）程度の生のものが商品サイズとして最高の価格を示している。したがって、このサイズのものが、いつ、どこで、どの程度漁獲可能であるかを明らかにする必要がある。クルマエビの放流事業が実施される前、あるいは漁場環境が悪化、消滅するまでは年々の発生量に変動があったとしても、専門漁業者には上記のようなクルマエビの出現状況はかなり適確に把握されていたものと考えられる。しかし、天然発生群（経年的には減少傾向）に加うるに人工種苗を放流するに至った近年では、未だ放流エビの成長、移動などに関する知見は次第に把握しつつある段階である。



湊、高砂両地先の放流群はその成長傾向においてはほぼ同一視し得るものと考えられるが、湊他先では放流後旬日を経ずして再捕された。この再捕は一定期間継続したが、高価格のサイズに達して再捕されたものはその中約三〇％である。一方、高砂地先では再捕時期はおくれたが、再捕個体は全部高価格のサイズに成長していた。漁業生産効果としては、後者での放流点が有効であったといわざるを得ない。

現行のクルマエビ放流は稚～幼エビ期のものを大量放流しているが、その放流技術に関しては、なお、問題点が多く、漁業生産効果は地域性が強い上、同一海域でも変動が大きいようである。稚～幼エビ期のものを若エビ期に成長させるには、数量的にも飼育管理面でも負担は大きいが、若エビ期の種苗放流も海域によっては一考を要するかも知れない。

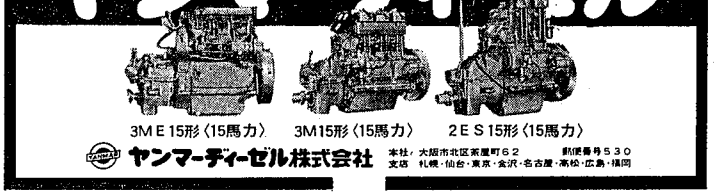


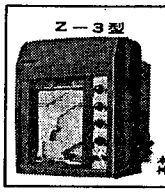
終りにのぞみ、本試験に前年と同様のご協力とご便宜をたまわった、西淡町役場産業課、同湊漁業協同組合および高砂市役所経済社会部、同伊保、高砂漁業協同組合の関係各位に厚く御礼申し上げる。

（水試・浜田）

三月二〇日までに目標額を達成しよう!!

漁船海難遺児募金

船舶主機用3～1200馬力・船舶補機用3.5～1200馬力
底曳漁業の省力化に
たくましい力を――！
ヤンマーディーゼル

3ME15形〈15馬力〉　3M15形〈15馬力〉　2ES15形〈15馬力〉
ヤンマーディーゼル株式会社　本社・大阪市北区茶屋町62　郵便番号530　支店・札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・高松・広島・福岡


Z－3型
待望の魚探機誕生
皆様の大漁を御約束する
小型から中型までの万能魚探
MODEL－Z－31A・B・C・D
Z－32A・B・C・
二周波魚探も出来ます
海上電機株式会社
本社　東京都千代田区神田錦町32　電話294－7611
神戸営業所　神戸市生田区明石町32　電話391－4301